



廿日市市
地域支援員だより

2022
秋号



特集 マコモタケ試験栽培
地域の情報（浅原）
佐伯高校

地域支援員

地域支援員とは、地域情報を発信したり、一緒に地域おこし活動をしたたり、地域内外の交流をはかったりしながら、地域の力を強くするために廿日市市の職員として1年単位で任用された人のこと。

任期は最長で3年間。その限られた時間の中で、何をやっているのか、佐伯や吉和でどんな動きがあるのかを知ってもらいたくて、この冊子を作りました。年に4回、お届けします。

マコモタケ

試験栽培好調!!

今年の2月から始まったマコモタケの試験栽培ももう少して収穫の時期を迎えようとしています。現在、背丈は2メートルほどで、順調に成長しています。マコモタケの収穫時期は9月下旬～10月上旬を予定しております。

「マコモタケとは」

マコモタケは水田で育つイネ科の植物で、主に中国・台湾で栽培されています。日本では耕作放棄地・遊休農地対策の一環として栽培されており、中には町おこしに活用している地域もあります。とても大きく葉が茂っていますが、食用となるのは根元の部分です。食べ方は様々ですが採れたては生で食べることができ、白く淡泊でほんのり甘い味はどんな料理にも合います。

「試験栽培のきっかけ」

「田んぼを田んぼとして使う。」ことを目標に地域の方との交流を深めていく中で、マコモタケの存在を知り、試験栽培にチャレンジしてみようと思いました。マコモタケを育てることで遊休農地や耕作放棄地の減少や新たな地域の特産品として地域貢献ができると考えました。

「収穫後の予定」

マコモタケの試験栽培を行う中で一番頭を悩ませていることがあります。それは、マコモタケの普及です。あまり一般的な野菜では無く、初めて見る方も多いため、そのまま販売しても厳しい面があると考えています。

そこで、マコモタケのおいしさを知って頂くために、玖島『花咲く館』でマコモタケの料理講習会兼試食会を開催する予定です。試食会では採れたてのマコモタケをふんだんに使用した、マコモタケ御前、の提供を考えていますので、マコモタケに興味のある方は是非お越しください。また、試食会当日はマコモタケの販売や簡単な栽培方法についても説明しますのでご参加ください。今後マコモタケの販売先や栽培方法などを整備し、地域の特産品としてPRしていけるように取り組んでいきたいです。

(中山 理公)

2月～3月

圃場の草刈りを開始

4月～5月

耕耘・代掻き・
苗掘り起こし・
苗定植

6月～7月

草取り・肥料まき・
水管理

8月

肥料まき・草取り

9月～10月

様子を見ながら収穫

マコモの成長



田植えをします！



ぐんぐん成長中！



背丈より大きくなりました！



実は・・・遊休農地でした。



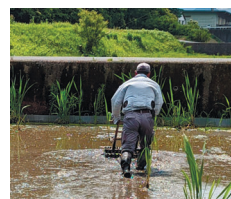
作業前



作業中



作業後



作業中のコマ



6月19日に浅原で行われた交流体験イベントに参加しました。浅原の住民と参加者が交流しながら、浅原の自然を感じてもらうことを目的としたイベントです。

第一弾はさつまいもの植え付け体験です。浅原交流会館から歩いて3分ほどの「あさみらファーム」で植え付けをしました。今年の植え付け体験には14組の家族が参加され、2年連続で参加された方もいらつしました。



みんなで集合!



広島修道大学の学生もお手伝いいただきました

浅原交流体験イベント

また、広島修道大学の学生も浅原の農業のプロに植え方を教えてもらい、イベントでは参加者のみなさんに教えてくださいました。

参加者のみなさんが楽しんでに植えているのがとても印象的でした。修道大学の学生のみなさんにとっても、地域住民のみなさんと一緒に協力できていたのがとても良かったと思います。植え付け後には参加者や学生さんが仲良くなり、近くの小瀬川の川辺で遊びをされていました。

また、交流会館のシャワーを使い、汗を流すかたもいらつしました。

10月29日(土)には今回植え付けをしたさつまいもの収穫体験イベントや、12月3日(土)

には広島天文協会の方を講師として招いて、浅原の空を観察する星空観察会が行われます。参加されたいかたは、浅原交流会館までご連絡ください。

問い合わせ先
浅原交流会館
0829-78-2650 (西本 智詞)

佐伯高校魅力発見!

SAEKI-QUEST

教科書のない冒険

佐伯高校には、生徒が興味を持ったこと、知りたいことを探究していく、SAEKI-QUESTという授業があります。

先に言ってしまうですが、私が、佐伯高校が魅力的だと思う理由の一つが、この授業です!
(声を大にして言いたい!笑)

私が高校生の時に、こんな授業を受けたかった!そう思う授業なのです。

この授業では、生徒が興味を持ったことをもとに、課題を見つけていきます。

そして、地域のかたや、その分野に詳しいかたに話を聞いたり、実際に実験・体験をするなどして、課題を探究していき、その課題の解決に向けて活動していきます。

SAEKI-QUESTには、教科書はなく、先生が準備してくれている教材もあります。

授業は、生徒自身が主体となって進んでいく探究の冒険なのです。



放課後、探究テーマについて、有識者のかたにインタビューする生徒。「ノートにたくさん質問を準備しました。知らなかったことが聞けて、嬉しい!」

生徒の興味関心は様々です。

今年度も、農業(商品化)、学校内の困りごと解決、LGBTQ(性的マイノリティー)、スポーツパフォーマンス向上、学校PR、地域活性化など、多数、多岐にわたる探究の冒険が始まりました。

この夏休み。

課題の探究を深めようと、動くチームがありました。

「保育」を探究課題にしたチームです。

課題は一人ひとりが見つけていきますが、探究テーマが近い生徒でチームを作り、協働して探究することもあります。

彼らは、夏休み前に地域の保育園に連絡をし、インターンシップとして、現場を経験させて欲しいと依頼をしました。



職場へ電話をするのも初めての経験。周りで、チームメンバーと先生が様子を見守っていました。

手には話すべきことが書かれたメモを持ち、緊張しながら電話をしました。

保育園から快諾いただき、どんなことをして欲しいか、困りごとはないか、などの事前アンケートをとり、当日に挑みました。



園児に向けて自己紹介。質問があるという園児に、「先生の好きな色はなんですか?」と聞かれ、表情が緩んだ瞬間。

インターンシップの数日は、生徒も緊張したと思います。

行動した先に起こる出来事の一つひとつが、初めての経験です。

その中で、自分で考えて行動しなくてはなりません。

この数日の経験で、彼らは社会に出る前に、大きな一歩を踏み出したのではないかと思います。

3年生のある生徒は、「ただ本やネットを見て、保育のことを勉強するのではなく、実際に保育園に行つて、自分で体験してみたかった。3年になったら、将来の夢に関することを探究すると決めていた。」と話してくれました。



佐伯高校の生徒たちは、SAEKI-QUESTという授業の中で、通常、社会に出てから経験の中で身につけていく、実践的な「人間力」を成長させていっています。佐伯高校生たちの未来が、楽しみでなりません!

(松本 美由紀)

今年の夏も いろいろありました

(玖島地区)

収束するかと思われたコロナ感染がまたも増加。これまでのような行動規制はなかったものの、やはり思い通りにならないことが多い夏になりました。そんな中でも、感染予防に留意しながら、玖島では皆さんに楽しんで頂けることを考えて実施しました。

「7月2日(土)」

JCDコラボマルシェ

広島工業大学JCD(女子学生キャリアデザインセンター)の皆さんとのコラボマルシェ。にんじんジャム作りなどの体験メニューをいろいろご用意しました。うまくいったかな？



「7月3日(日)」

白いおおもとの収穫体験会

白いおおもとはそのままで甘ーい白いうもろこしの品名です。玖島地区内外から10名近いかたが参加。たくさん収穫できました。



「8月13日(土)」

玖島花火

残念ながら夏祭りはできなかったけれど、今年も玖島の夜空に花火が打ち上げられました！来年こそは夏祭りしたいですね。



「8月中旬」

ひまわりプロジェクト

そして8月中旬には、玖島地区コミュニティ推進協議会 文化部有志の皆さんが植えたひまわりが開花！例年以上に暑かった夏にも負けなかったひまわりたちに、たくさん元気をもらいました。

ドローン体験会を

(義志 裕子)

開催しました！

8月7日(日)に津田市民センターと日本ドローン機構株式会社と共催でドローン体験会を津田小学校で開催しました。

今回はドローンの操縦体験の他に、これからのデジタル社会に向けてのお話と

いうことで、私の活動の中でICT技術を用いた事例についてもお話をさせていただきました。



News & Information

28名の方にご参加いただきましたが、年齢層も幅広く、市外からの参加者もあり、ドローンやICT技術への関心の高さがうかがえました。今後も佐伯・吉和地域の方々にICT技術に気軽に触れてもらえるようなイベントを企画していきたいと思います！

(中井 皓一)

吉和 夏まつり

8月13日(土)に開催されました。昼の部は、ひまわり畑で行われました。ひまわりの摘み取り・とうもろこしのもぎ取りが行われました。



時折、スコールのような雨

に見舞われましたが、大勢の皆様楽しんでいただきました。ひまわりは、事前に強風大雨に見舞われ沢山倒れてしまい、例年に比べ寂しい状態に...とうもろこしも生育不良で迷惑をおかけする事となり、自然相手はなかなか思うようにいかない事を痛感しました。夜間の部は吉和グラウンドで行われました。開会後大雨に見舞われましたが、

素敵な虹とともに雨は上がり、三年ぶりの神楽などのステージや焼きあまご販売、吉和ならではのまつりを皆様楽しんでおられました。最後は三千発の花火を鑑賞し、吉和を堪能していただきました。

《イベントのお知らせ》

10月22日(土)12時半から《吉和謎解き?ウオーキング》を開催します。

吉和に関するクイズやゲームにチャレンジしながら、ウオーキングを楽しみ、順位に応じて吉和の特産品をプレゼントします。

秋の紅葉や景色の中で、吉和の秋を満喫してみませんか？

参加費 500円で、先着20チーム(最大10名)で雨天の場合は中止となります。事前申し込みが必要となります。たくさんのご参加お待ちしております。

チラシのQR
はこちら！



《申し込み・問い合わせ先》

吉和支所 地域支援員 土橋

Tel 0829(77)2112

編集後記

夏まつりが開催されました。久しぶりに多くの方々とふれあい、お話をさせていただき、笑顔と元気をもらい幸せな時間を過ごせました。何気ない日常や平和のありがたさを再認識できました。来年度は、マスクもなくお会いできる事を期待しています。

今後も地域内外の皆様とのつながりやふれあいを大切にしながら、地域支援員7名で頑張っていきたいと思います。(土橋 君枝)